

1月19日 スイスフランで大混乱！

■ スイスフランの対ユーロ上限撤廃

先週、突如として、スイス国立銀行（日本でいうところの日銀）が、ユーロとの変動において設定している上限を撤廃する、と発表しました。

このおかげで世界中の金融市場は大混乱に。

欧州、NY、東京の株式市場は急落し、スイスフランは30%も上昇する、という事件が起きました。

「ユーロとの変動の上限を撤廃する」

この表現は難しいのですが、つまりこれまでは、ユーロが下落していく局面で、スイス国立銀行（SNB）はユーロを買い支え、スイスフランを売ってきたのです。こうすることで、ユーロとスイスフランの間には上限があったわけです。

しかし、これを止めた、ということは、SNBがユーロを買い支えることを止めた、ということの意味します。

ではなぜ、そんなことをするのでしょうか？

その答えは、今週のスケジュールにあります。

1月22日 ECB（欧州中央銀行）理事会

<ここで、欧州金融緩和政策が発表される可能性がある>

1月25日 ギリシャ総選挙

<ここでユーロに対するギリシャの姿勢が決まる>

噂ですが、ECBの関係者から、これらのイベントを通じてユーロが急落する恐れがある、という見通しが、SNBにもたらされたことが、今回の措置の原因だとも言われています。

ユーロがあまりに下がると、さすがにSNBもこれを買って支えるのはしんどいですからね。

しかし、この話を裏返すと、この25日までのスケジュールの中で、何かが起きて、ユーロが急落する恐れがある、ということになります。

その不気味さが、世界中を恐怖に陥れた、という側面もあります。

■ 東京市場と円への影響

今回のことは、円にも影響を及ぼします。

というのも、実は世界中では、スイスフランと円は、似たような通貨として「仲間扱い」されているからです。

昨年来、ロシア危機とか欧州危機、中国財政問題、地政学リスク、そういった問題が起こるたびに、円高になりましたね。

円は「リスクオフ通貨」とか言われています。つまり、何か世界で問題が起きて、投資家たちがリスクを取れなくなったときに、避難する先としての通貨とされたのです。

そして、スイスフランもまた、同じように、「リスクオフ通貨」なのです。

日本もスイスも、国際的にはあまり紛争がなく、平和な国、というイメージが定着しているからでしょう。

さて、スイスフランの変動上限が、対ユーロでなくなったことで、もしスイスフランが急上昇する局面が今後も出るとすると、やはり円も同じように上昇しやすくなる可能性があります。

あるいは、これまでスイスフランに避難していた投資家が、今回のことで、円に、シフトしてくることも考えられます。

さらに、ユーロが暴落するような事態が本当に起こるとすれば、やはりリスクオフ通貨としての円が、買われることになりそうです。

今の株式市場では円高はマイナス材料。

今週は、週末のギリシャ総選挙なども控え、あまり中途半端な取り組みで売買をしないほうが良いのではないかと思っています。

テールリスクがありすぎの1週間です。コワ・・・

ECB（欧州中央銀行）

ユーロ圏全体の金融政策を決定する機関。現在 17 か国がユーロ圏にある。いまの総裁はマリオ・ドラギ。イタリア人で、いい加減かと思いきや、結構堅めの人物とされている。イタリアのコーポレートガバナンスの法律を作成し、「ドラギ法」と呼ばれている。

テールリスク

起こる可能性は低いが、起きると莫大な損害が発生するリスクのこと。確率分布のグラフにすると、先の細いほうの部分を指すので、「テール」と言われる。家庭でいえば、交通事故とか大病とか、泥棒に入られる、詐欺にあう、火事が起こる、そんなようなことに当たる。

リスクオン

投資家がリスクをとって投資ができる状態のこと。投資環境が良い状況。

リスクオフ

投資家が、リスクをとって投資をしづらい状況のこと。投資環境が悪い状況。